

札幌市立もいわ幼稚園の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

幼児期に絵本を読み聞かせることで、想像力が豊かになる、語彙力が伸びるなど様々な力が育まれていく。特に家庭での読み聞かせは、我が子を膝の上に載せ、ゆったりと関わる時間となり、子どもの心の安定につながることから、幼児期に大人が読み聞かせることは子どもの発達にとって、とても有益な経験となる。

本園では、これまで生活や遊びを通して学んでいることや経験していることを保護者と共有していき、連携を取ってきた。今年度は子どもがさらに絵本に親しみをもったり、話の世界を楽しんだりできるように、保育の中で教師の援助や関わりを工夫しながら、保護者に絵本よさを実感してもらい、絵本のイメージの世界や遊びを共有する楽しさを感じることができるよう発信し、園と家庭が連携して、幼児がより絵本に親しむための環境づくりを目指したいと考える。

2 取組内容

(1) 子どもが絵本に親しむ機会作り

絵本の世界で遊ぶ

各学級では日常的に絵本の読み聞かせを行ったり、学級内に幼児の興味・関心にあった絵本を置いたりするなどして絵本により親しみをもって関わるができるようにしてきた。また、幼児が関心をよせた絵本の登場人物になりきってごっこ遊びを楽しみ、イメージを広げて物語の世界に浸っていけるよう支えていた。

年中組では「ぶたのたね」の絵本を読み聞かせた後、登場するブタになったり、オオカミになったりして遊んだ。“ブタのなる木”を作り、絵本と同じイメージをもって教師や友達とやりとりをして楽しんでいった。年長組では「くれよんのくろくん」の登場人物をペープサートを作り、人形劇舞台を使って遊んだ。絵本のストーリーを実現できるように友達と話の進め方や役割分担などを相談し、更にイメージを広げてオリジナルの動きを加えていくなど、絵本の世界に浸り、お話を考えたり、表現したりすることを楽しんだ。



年中組ぶたのたねごっこ



年長組くれよんのくろくんのお話

(2) 保護者・地域との連携

① 保護者による読み聞かせ

本園では月3回程度、園児が絵本を選んで貸し出しを行っている。今年度は家庭で絵本に親しみ、子どもの心の動きや感性をより実感してもらおう機会になってほしいと

願い、読み聞かせの感想用紙（我が子に絵本の面白かったところを聞く、どんな表情をしていたかななどの質問項目を設けた）に記入していただいた。少しずつ保護者の関心も高まり、感想用紙からは読み聞かせしている時の我が子の表情や面白がっていたところなどにも目を向けていることが伺える。家庭でじっくりと絵本を読み聞かせたり、我が子と振り返ったりする機会になっていると感じる。

また、幼稚園内で保護者による読み聞かせを実施した。園児とゆったり関わりながら絵本を一緒に読むことで園児、保護者ともに絵本の楽しさを共有する時間となった。



読み聞かせの感想用紙

②ポロップひろば（未就学児の子育て広場）

本園では南区の研究実践園として、地域の未就学児の親子に幼稚園を遊びの場として提供する『ポロップひろば』を開催している。8月のポロップひろばでは『きんぎょがにげた』の大型絵本を読み聞かせた後、親子できんぎょになって動いて遊ぶことで話の世界で動く楽しさを実感してもらう機会になった。



保護者による読み聞かせ



ポロップでの読み聞かせ

3 成果と課題

(1) 成果

幼児がお話の世界に浸り、ごっこ遊びが豊かになるための環境構成を工夫することでイメージを膨らませながら遊ぶ姿が見られた。また、家庭での絵本を園に持って来て、教師や友達と楽しんだり、近隣の図書館から絵本を借りて家庭で読んだりする姿から、絵本への関心が高まったと感じる。

保護者から「一緒に読んで楽しかった」「我が子が生き生きとした表情をしていた」等の感想を寄せられており、絵本を通して我が子への関わり方を考えるきっかけになり、保護者の意識が変化することで、幼児も絵本の読み聞かせの心地よさを感じている。

ポロップひろばでは、親子でお話の世界を楽しむ機会をつくることで読み聞かせだけでなく、ごっこ遊びの中でイメージを広げて心や身体を動かして遊ぶ体験してもらうことができた。

(2) 課題

絵本への興味・関心は広がったが、個人差が見られる。幼児の興味・関心をもつ姿を見逃さずに捉え、絵本の読み聞かせやごっこ遊びの中でお話の世界を楽しめるような支援や環境づくりの工夫していきたい。また、保護者に絵本の読み聞かせを通して育む力・豊かさをより一層知ってもらうと共に、絵本やお話に慣れ親しむための働きかけを今後も工夫していく。